学校番号	３０１７

令和２年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	書Ⅱ　（光村書店）３０８						
副教材等	なし						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅱは書道Ⅰの上に立っての学習で、書の伝統・文化としての理解を深めるために、表現と鑑賞（特に古筆、名筆）の関連を有機的に図りながら、意欲的に取り組ませる。

２ 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、感性を高め、書の文化、伝統についての理解を深め、個性豊かな表現力を伸ばすことを目標とする。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	芸術や自然などの美に触れたときに起こる効果的な表現をしょうという意欲や態度を身につけさせる。	書かれた文字と表現の構想や技法が混然一体となって自己の人間性を表現させるよう工夫させる。	書道Ⅱでは、古典の範囲を広げ、表現力を拡充させる必要があることから王羲之の行書、仮名の高野切第１、第２、第３等の美を体験させる。	工夫は草稿から完成までの制作過程を意義あるものにするために欠くことのできない活動であり、古筆や古典、名筆といわれる作品を多く取り上げる。
評価方法	観察	提出作品	提出作品	提出作品

上に示す観点に基づいて、a:10%, b:50%, c:30%, d:10%の割合で評価し、５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	行書を学ぶ	・2年次は1年生での活動を踏まえた上で、まず道具に慣れることから始める。て、特に行書と仮名の表現に取り組ませる。 ・行書の古典 王羲之の書と伝えられる蘭亭叙の張金界奴本を学ぶ ・マスターした所まで全部、半切におさめ仕上げる ・ハガキ制作 篆刻・印の作成・墨色の工夫 ・墨絵による立体表現方法を学ぶ	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a：書への関心・意欲・態度 b：書表現の構想と工夫 c：創造的な書表現の技能 d：鑑賞の能力	提出作品
	仮名を学ぶ	・仮名の古筆を中心に製作 （高野切第1・第3種、寸松庵色紙、関戸本古今集等）料紙にて仕上げる	○	○	○	○	a：書への関心・意欲・態度 b：書表現の構想と工夫 c：創造的な書表現の技能 d：鑑賞の能力	提出作品

※　表中の観点について　a：書への関心・意欲・態度　　b：書表現の構想と工夫
c：創造的な書表現の技能　　d：鑑賞の能力